

# 〈真白き富士の根〉と讃美歌(1)

## —— 作曲者の誤解と歌詞・曲の変遷 ——

手代木 俊 一

TESHIROGI, Shun'ichi

### はじめに

哀悼歌〈真白き富士の根〉《七里ヶ浜の哀歌》は、今でも広く歌われる唱歌で、長い間ガーデン（ガードン、以下ガーデン）という人が作曲したということが定説になっていた。

最近、作曲がアメリカ人ガーデンと思われていたのが、実際はインガルスであることがマスコミに取り上げられ<sup>(注1)(注2)(注3)</sup>、ボート事故のあった逗子開成学園でも小冊子『85年ぶりに新事実——〈真白き富士の根〉の作曲者はガーデンではなくインガルス——』<sup>(注4)</sup>が刊行され、作曲者をめぐる真偽が一部話題になった。

読売新聞横浜支局は神奈川版「人 うた 抄」<sup>(注5)</sup>のため横浜・湘南にちなんだ歌の取材を続けていた。また、逗子開成学園は学校史に関わる歌として作曲者（ガーデン）の真偽を調査していた。筆者は読売新聞横浜支局、及び逗子開成学園の取材・問い合わせを受け、資料の紹介をした。その後新たに判明した事実もあり、〈真白き富士の根〉と作曲家の問題を調査していくうちに明らかになってきたことを、現時点でまとめてみたい。

### 作曲者の誤解と歌詞・曲の変遷

明治43年1月23日、鎌倉の七里ヶ浜で逗子開成中学生の乗ったボートが遭難し、12人の少年が溺死した。翌2月6日に大法会が行われ、参列した鎌倉女学校の生徒によって〈真白き富士の根〉が歌われた<sup>(注6)</sup>。作詞し、オルガン伴奏をしたのは鎌倉女学校教諭三角錫子である。曲は当時女学生に親しまれていた《夢の外》<sup>ほか</sup>（明治23年、譜例6）の旋律で歌われた。〈真白き富士の根〉の楽譜（譜例7）は大正5年、音楽社から出版され<sup>(注7)</sup>、演歌師がこの曲を広めたとされている。

大和田建樹作詞《夢の外》は、大和田建樹・奥好義編『明治唱歌』第五集（明治23年）に収録されているが、作曲者は明記されていない。しかし、この曲は *Franklin Square Song Collection*, Vol.5（1882[明治15]年）収録の《When we arrive at home》（譜例5）<sup>(注8)</sup> と同一曲である。

現在、われわれが唱歌を調べる際、まず手にする資料は昭和33年初版の堀内敬三・井上武士編『日本唱歌集』（岩波書店）であろう。『日本唱歌集』に収録されている〈真白き富士の根〉

の作曲者はガードンとなっている。しかし、音楽辞典を見てもガードンという作曲家の名はでてこない。堀内敬三は昭和7年『明治回顧 軍歌唱歌名曲選 童謡唱歌名曲全集續編』（京文社）を編集し、〈真白き富士の根〉（譜例8）を編曲、この曲の解説をも載せている。作曲者はガードンとしながらも、解説文には「……曲は當時女學校でよく歌われた唱歌『昔のわが宿變らぬ故郷の』（When we arrive home[sic]）旋律をそのまま用いたのである」と書かれており、《真白き富士の根》と《When we arrive at home》が同一曲であることは知っていたようである。

*Franklin Square Song Collection* (New York: American Book Company, 1881-1891) 収録の《When we arrive at home》の楽譜（譜例5）をみると、これが讃美歌であることが歴然としてくる。すなわち、讃美歌の楽譜によく見られる書き方で、作曲者の欄にJeremiah Ingalls、チューン・ネームの欄にGARDENと書かれているのである。ちなみに*Franklin Square Song Collection*の副題はSongs and Hymns for School and Homes, Nursery and Fireside（下線筆者）である。堀内敬三はうっかりしていたのか、孫引きか何かで実際には楽譜を見ていなかったに違いない。

堀内敬三（1897-1983）は、富士見町教会員で、『獨唱名聖曲集』（全音楽譜出版社、昭和21年）を津川圭一と共に編集。昭和3年の『日曜学校讃美歌』の改訂委員、同書に用いた《ちいさいひつじが》<sup>(注9)</sup>を作詞するなど、日本の教会音楽に貢献したが、音楽評論家として、そして『明治回顧 軍歌唱歌名曲選』を出版した昭和7年から東京音楽協会の常務理事として、既に音楽界の実力者になっていた<sup>(注10)</sup>。権威のある者の誤解が定説になったのであろう。

堀内・井上編『日本唱歌集』が出版される10年前、昭和23年に遠藤宏は、その著『明治音楽史考』（有朋社）のなかで、〈真白き富士の根〉に関して次のように述べている<sup>(注11)</sup>。

(56)、「夢の外」と「真白き富士の<sup>ママ</sup>峰」

インガルスJeremiah Ingalls (1764-1828) 編讃美歌集*Christian Harmony* (1805年米國にて出版) 中にあるWhen we arrive at homeという歌が原曲である。邦語唱歌になったのは明治二十三年出版「明治唱歌」第五中の「夢の外<sup>ほか</sup>」（大和田）が最初である。

「真白き富士の<sup>ママ</sup>峰」の歌詞がこのメロディーをかりて流行歌となり誰も知るやうになった。この歌は大正五年、ボートで乗りだした逗子の中等生徳田兄弟他が七里ヶ濱沖で遭難した折りに、鎌倉の先生三角錫子が作歌したのである。「七里ヶ濱の哀歌」（大正五年六月印行）として歌い出されたのであった。（以下略）

遠藤宏は〈真白き富士の根〉の作曲者をガーデンとはせず、文献上はじめてインガルスとの

関係を述べている。定説にとらわれず、判る範囲からだけ論述したのであろう。しかし、彼は *Christian Harmony* を所蔵していなかったと思われる。なぜならば、*Christian Harmony* には確かに 《When we arrive at home》と同じ歌詞の讃美歌が収録されているが、《When we arrive at home》というタイトルでは収録されていないからである。

逗子のボート遭難事故は〈真白き富士の根〉のタイトルで昭和10年に映画化（松竹、佐々木康監督）されている。主題歌がSPレコードになっているが、作曲者はインガルスになっていた。しかも活字が手書きでガードンをインガルスと訂正している<sup>(注12)</sup><sup>(注13)</sup><sup>(注14)</sup>。事情を知っていた人物は存在していたようだ。しかし、権威から生まれる定説を覆すことはできなかった。

資料不足、権威から生まれた定説、そして〈日本洋楽史におけるキリスト教〉<sup>(注15)</sup>という観点からの研究の立ち後れが、今日まで作曲者の誤解が続いたのであろう。

さて、ここで〈真白き富士の根〉に到るまでの、その曲と歌詞の変遷を追ってみよう。遠藤宏氏の指摘どおり *Christian Harmony* (Exeter, NH, 1805/R1981) に《When we arrive at home》は《Love Divine》(譜例3)というチューンネームで収録されている。D. G. Klocko の博士論文(ミシガン大学) *Jeremiah Ingalls's "The Christian Harmony: or, Songster's Companion"* (1978) によれば「インガルスは18世紀中葉のイギリス・ダンス音楽《Nancy Dawson》<sup>(注16)</sup>(当時の舞台ダンサー、ナンシー・ドーソンを賞賛する曲[1760]、譜例2)の後半部分を編曲して《Love Divine》の曲として採用し、*Christian Harmony* (1805)に収録した。《Nancy Dawson》は下卑た題名の《Piss upon the grass》(譜例1)の曲に手を加えたものである。《Love Divine》には《His grace diffuses as the rein》を初行とする7節の歌詞と《The Lord into his garden's come》を初行とする10節の歌詞の2者が配されている。そして、アメリカ南部讃美歌集編纂者は《Love divine》の2種類ある歌詞のうち、後者の歌詞《The Lord into his garden comes》<sup>(注17)</sup>を好み、*Southern Harmony* (1835)に新しく《Garden (hymn)》(譜例4)というチューンネームをつけ収録した。」<sup>(注18)</sup>

この《The Lord into his garden comes》の第5節最後の部分が「When we arrive at home」である。讃美歌《When we arrive at home》は、*Franklin Square Song Collection* に収録される際《The Lord into his garden comes》の第1節、2節、5節だけで、新たに構成されたものである<sup>(注19)</sup>。

変遷をまとめると、《Piss upon the grass》(1740年頃、譜例1)、《Nancy Dawson》(1760、譜例2)、《Love Divine》(1805、譜例3)、《Garden》(1835、譜例4)、《When we arrive at home》(1882、譜例5)、《夢の外》(1890、譜例6)、〈真白き富士の根(山本正夫調和)〉(1916、譜例7)、そして〈真白き富士の根(堀内敬三編)〉(1930、譜例8)と現在にまで続く。《Piss upon the grass》と《Nancy Dawson》はほぼ同曲<sup>(注20)</sup>。《Love Divine》

は《Nancy Dawson》の前半を編曲し、後半は新しく作曲している。インガルスオリジナルといってもよく、*Biographical Dictionary of American Music* (New York: Parker, 1973) では、インガルス作曲となっている。(譜例 1、2、3)

《Love Divine》《Garden》《When we arrive at home》の旋律はほぼ同一だが、歌ってみると、《Love Divine》《Garden》と《When we arrive at home》とではまったく違った曲に聞こえる。和声の感覚によるものと思われる。《When we arrive at home》は《真白き富士の根》と同様に、現在の和声感覚で聞くことができるが、《Love divine》《Garden》には中世を感じさせる。(譜例 3、4、5)

《When we arrive at home》と《夢の外》はほぼ同一。《When we arrive at home》《夢の外》と《真白き富士の根（山本正夫調和）》とでは、「いまはなみだ かえらぬ」の「かえらぬ」のところが、山本正夫編曲ではアウフタクトにかえられている。出だしがアウフタクトなので、この方が全体としてまとまり、山本正夫のセンスのよさが感じられる。山本正夫編曲では「かえらぬ」と「おおしき みたまに」の「みたま」が《When we arrive at home》、《夢の外》より音程が2度低くなっている。堀内敬三編曲では、「かえらぬ」のところはアウフタクトを採用し、旋律は《When we arrive at home》《夢の外》に戻している。慣れ親しんでいることもあろうが、堀内敬三編曲が一番歌い易い。(譜例 5、6、7、8)

それにしても、軽快なダンス音楽が幾多の変遷をへて叙情的な日本の唱歌になったことは興味深い。ちなみにこの曲は日本的音階といわれるヨナ抜き五音階である。

なお、『聖歌』（昭和33年）第623《いつかは知らねど》は、チューンネーム《MASIROKI HUJI-NO-NE》で、この曲が讃美歌として歌われている。作曲者不明となっているが、19世紀初頭に生まれた讃美歌が、紆余曲折をへて、また讃美歌になったことに深い感慨を覚える次第である。

(注1) 図版(1)参照：『読売新聞』1995〔平成7〕年2月23日夕刊。

(注2) 図版(2)参照：『読売新聞』1995〔平成7〕年3月1日。

(注3) 図版(3)参照：『読売新聞』1996〔平成8〕年2月25日。

(注4) 肥後文子著 山上浩編『85年ぶりに新事実——『真白き富士の根』の作曲者はガーデンではなくインガルス——』逗子開成学園、1996（平成8）年1月。

(注5) 「人 うた 抄」の記事は加筆され、一冊の図書にまとめられた。読売新聞横浜支局著『うた 人 ヨコハマ』230クラブ新聞社、1996（平成8）年2月。

(注6) 高木とみ著「〈真白き……〉と三角錫子先生」『真白き富士の嶺』鎌倉開成会、1964（昭和39）年5月、pp.58-59。

(注7) 三角錫子作歌『哀悼歌 眞白き富士の根(山本正夫調和)・母のなげき(山本正夫作曲)』

(注8) 筆者はこの曲集をボストン・パブリック・ライブラリーで閲覧したが、複写は許可されなかった。

山口芸術短期大学安田寛助教授より、山口県立図書館が所蔵していることをご教示いただき、複写もしていただいた。大和田建樹は勿論この曲集を知っていたであろうし、遠藤宏氏は『明治音楽史考』で何か所も引用しているので所蔵していたと思われる。山口県立図書館の受け入れは明治36年5月である。当時、まとまった曲集として便利な存在であったと考えられる。

(注9) 『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988(昭和63)年、pp.1291-1292、〈堀内敬三〉の項(原恵執筆)。

(注10) 堀内敬三の功罪については、赤井励著『オルガンの文化史』(青弓社、1995[平成7]年8月) pp.219-225、232-236、「島崎赤太郎以後のオルガン史」(2. 東京音楽協会の謎、3. 田辺尚雄と音楽評論)を参照。

(注11) pp.233-234.

(注12) 図版(4)参照：〈眞白き富士の根〉SP盤歌詞カード、『うた 人 ヨコハマ』(230クラブ新聞社)より。

(注13) 逗子開成学園肥後文子氏にご教示いただいた。肥後氏は〈眞白き富士の根〉大正5年の楽譜等、調査の過程で得た様々な資料を提供してくださった。

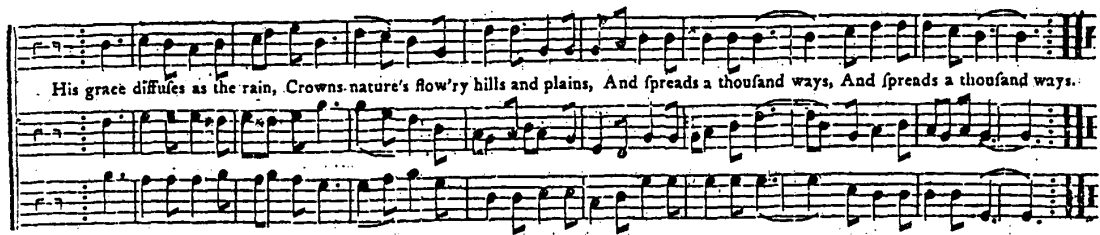
(注14) このSPレコードのジャケットのすべてがインガスルに訂正されているかどうかは調査できなかった。クリストファ・N. 野澤氏の私信によれば、ご所蔵分、及び他の2,3点は訂正されていなかったとのことである。

(注15) 『洋楽導入者の軌跡』の著者、中村理平氏はこの観点から「キリスト教の日本の洋楽」を著そうとしたが、第一章「カトリック教会」、第二章「ハリストス正教会」を書き上げ、第三章「プロテスタント教会」の章立てをしたところで、1994(平成6)年10月13日急逝した。中村理平著『キリスト教と日本の洋楽』(大空社、1996[平成8]年9月)は遺稿集でもある。

(注16) 国立音楽大学図書館梅田英春氏より《Nancy Dawson》が1760年の*Universal Magazine*にNew Songとして収録されており、ブリティッシュ・ライブラリーが所蔵していることをご教示いただいた。好運なことに北海道大学がマイクロ・フィルムで*Universal Magazine*を所蔵していた。今回、楽譜を示すことができたのは、梅田氏、北海道大学図書館のおかげである。

(注17) 以下の図版参照：Christian Harmony, pp.63-65.





2 Salvation is the noblest song;  
O may it dwell on ev'ry tongue,  
And all repeat amen:  
Th' Lord has come from heaven to earth,  
To give His people second birth,  
And make us his again.  
3 We feel redemption drawing near,  
We soon in glory shall appear,  
And be forever blest:  
The promise never can delay,  
Our Jesus now is on his way,  
To give his people rest.  
4 By faith we see him coming down,  
With angels hov'ring all around,  
He smiles upon his saints:  
He cries aloud in melting strains,  
I come to save you from your pains,  
And end your sore complaints.

5 His loving millions rise and sing,  
All glory, glory to our King,  
The grand asize is come:  
The everlasting doors fly wide,  
The church all glorious as a bride,  
And Jesus takes her home.  
6 In all the heav'ns there's not a tear,  
Nor in eternity a fear;  
But pleasures yet unknown:  
From heav'n to heav'n we found the bliss,  
O! what a glorious heav'n is this,  
Forever round the throne.  
7 The days of heav'n will never end,  
All glory to the sinner's friend;  
Roll on ye happy scenes:  
Ye winged seraphs help us praise  
The ancient of eternal days,  
Our Jesus ever reigns.

THE Lord into his garden's come,  
The spices yield a rich perfume,  
The lilies grow and thrive:  
Refreshing flow'rs of grace divine,  
From Jesus flows to every vine,  
Which makes the dead revive.  
2 O that this dry and barren ground,  
In springs of water may abound,  
A fruitful soil become:  
The deserts blossom as the rose,  
When Jesus conquers all his foes,  
And makes his people one.  
3 The glorious time is rolling on,  
The gracious work is now begun,  
My soul a witness is:  
I taste and see the pardon free  
For all mankind as well as me,  
Who come to Christ may live.

4 The work of sinners here may find  
A Saviour pitiful and kind,  
Who will them all receive:  
None are too late who will repent,  
Out of one sinner legions went,  
The Lord did him relieve.  
5 Come brethren, ye that love the Lord,  
Who taste the sweetness of the word,  
In Jesus' ways go on:  
Our troubles and our trials here,  
Will only make us richer there,  
When we arrive at home.  
6 We feel that heav'n is now begun,  
It issues from the shining throne,

(下線筆者)

From Jesus Christ on high:  
It comes like floods, we can't contain,  
We drink, and drink, and drink again,  
And yet we still are dry.  
7 But when we come to reign above,  
And all surround the throne of love,  
We'll drink a full supply:  
Jesus will lead his armies through,  
To living fountains where they flow,  
Which never will run dry.  
8 There will we reign and shout and sing,  
And make the upper regions ring,  
When all the saints get home:  
Come on, come on, my brethren dear,

Soon we shall meet together there,  
For Jesus bids us come.  
9 Amen, amen, my soul replies,  
I'm bound to meet him in the skies,  
And claim my mansion there:  
Now here's my heart, now here's my hand,  
To meet you in that heavenly land,  
Where we shall part no more.  
10 There on that peaceful, happy shore,  
We'll sing and shout our full rings o'er,  
And praise Redeeming Love:  
We'll shout & praise our conquering King,  
Who dy'd himself, that he might bring  
Us rebels home to God.

(注18) pp. 563-570.

(注19) 以下の図版参照: *Christian Harmony*, pp. 64-65.

① THE Lord into his garden's come,  
The spices yield a rich perfume,  
The lilies grow and thrive:  
Refreshing flow'rs of grace divine,  
From Jesus flows to every vine,  
Which makes the dead revive.  
② O that this dry and barren ground,  
In springs of water may abound,  
A fruitful soil become:  
The deserts blossom as the rose,  
When Jesus conquers all his foes,  
And makes his people one.  
3 The glorious time is rolling on,  
The gracious work is now begun,  
My soul a witness is:  
I taste and see the pardon free  
For all mankind as well as me,  
Who come to Christ may live.  
4 The work of sinners here may find  
A Saviour pitiful and kind,  
Who will them all receive:  
None are too late who will repent,  
Out of one sinner legions went,  
The Lord did him relieve.  
⑤ Come brethren, ye that love the Lord,  
Who taste the sweetness of the word,  
In Jesus' ways go on:  
Our troubles and our trials here,  
Will only make us richer there,  
When we arrive at home.  
6 We feel that heav'n is now begun,  
It issues from the shining throne,  
From Jesus Christ on high:  
It comes like floods, we can't contain,  
We drink, and drink, and drink again,  
And yet we still are dry.

7 But when we come to reign above,  
And all surround the throne of love,  
We'll drink a full supply:  
Jesus will lead his armies through,  
To living fountains where they flow,  
Which never will run dry.  
8 There will we reign and shout and sing,  
And make the upper regions ring,  
When all the saints get home:  
Come on, come on, my brethren dear,  
Soon we shall meet together there,  
For Jesus bids us come.  
9 Amen, amen, my soul replies,  
I'm bound to meet him in the skies,  
And claim my mansion there:  
Now here's my heart, now here's my hand,  
To meet you in that heavenly land,  
Where we shall part no more.  
10 There on that peaceful, happy shore,  
We'll sing and shout our full rings o'er,  
And praise Redeeming Love:  
We'll shout & praise our conquering King,  
Who dy'd himself, that he might bring  
Us rebels home to God.

(丸印筆者)

(注20) Klocko, D. G. *Jermiah Ingalls's "The Christian Harmony: or, Songster's Companion" (1805)*, pp. 564-566, 《Love Divine》《Nancy Dawson》《Piss upon the grass》の曲の対照表による。



旧制女子開成中  
ホート事故追悼歌

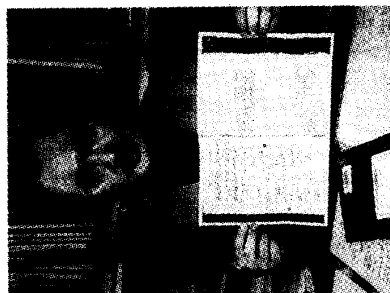
## 真白き富士の根

一九一〇年、鎌倉市の七里ヶ浜に名を冠した旧制女子開成中学校のホート舞臺事故を悼むために作られたメロデー「真白き富士の根」は、英国の舞曲「ナンシー・ト」(一九〇〇年発表)が原曲のもので、十四日まで、鎌倉市のフエリス女学院で、日本舞踊部顧問事務局長、手代木俊二さん(四三)の調音で分かった。北大が所蔵する同舞曲の楽譜本を調べた結果、メロディーがほぼ一致した。手代木さんは、近頃の舞臺まわりの編曲を聞き、原曲の楽譜本を調べた結果、メロディーがほぼ一致した。手代木さんは、近頃の舞臺まわりの編曲を聞き、原曲の楽譜本を調べた結果、メロディーがほぼ一致した。

# 原曲はメロデー

ナンシー・ト

フェリス女学院の手代木さん調査



メロデーがほぼ一致

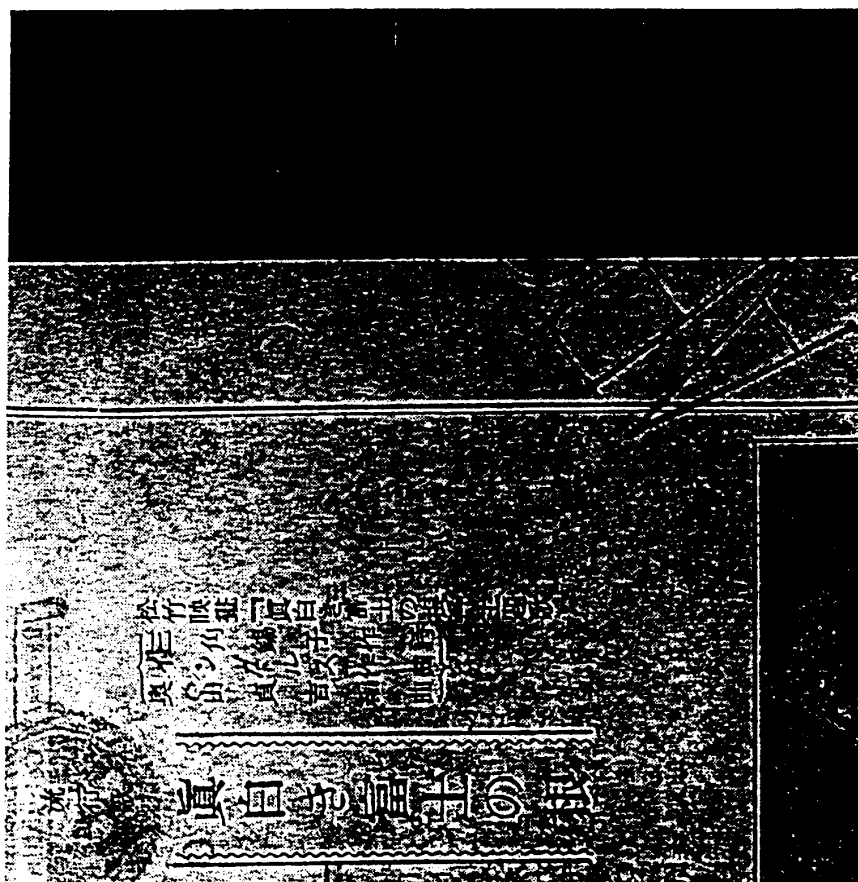
「真白き富士の根」は、わが国「夢の外」のメロディーをうけた。その曲は、一九一〇年に、三度舞臺事故(明治三十七年)が、舞臺事故をうけた。その曲は、一九一〇年に、三度舞臺事故(明治三十七年)が、舞臺事故をうけた。

その後、原曲とされる英国舞曲を調べる、英国図書館など調査した結果、この舞曲が「ナンシー・ト」であることが判明。その同曲の楽譜を調べる、本「ザ・エニグマ・マシナ」を北大が所蔵していることが分かった。このため、依頼し、楽譜のコピーを入手、演奏してみたところ、「真白き富士の根」のメロディーとほぼ一致した。手代木さんは「最初に日本に教わった『夢の外』の作詞者である、田中さんか、よほど楽譜で作ったのか、と聞き、調べてもらった」と話している。

原曲の楽譜を手にする手代木さん(左)は、英国舞曲「ナンシー・ト」の楽譜を調べる、英国図書館など調査した結果、この舞曲が「ナンシー・ト」であることが判明。その同曲の楽譜を調べる、本「ザ・エニグマ・マシナ」を北大が所蔵していることが分かった。このため、依頼し、楽譜のコピーを入手、演奏してみたところ、「真白き富士の根」のメロディーとほぼ一致した。手代木さんは「最初に日本に教わった『夢の外』の作詞者である、田中さんか、よほど楽譜で作ったのか、と聞き、調べてもらった」と話している。

発表文へ

図版(3)：『読売新聞』1996〔平成8〕年2月25日



図版(4)：〈真白き富士の根〉SP盤歌詞カード  
『うた 人 ヨコハマ』(230クラブ新聞)より



譜例 1



Klocko, D. G. *Jermiah Ingalls's "The Christian  
Harmony: or, Songster's Companion"* (1805).

208

THE UNIVERSAL MAGAZINE

NANCY DAWSON, *A New Song.*

209

Of all the girls in our town, The black, the fair, the  
red, the brown, That prance and dance it up and down, There's  
none like Nan-cy Dawson. Her ex-asy  
main, her shape so neat; Sic foots, she trips, she  
looks so sweet; Her ve-ry mod-oas are com-plet; I  
die for Nan-cy Dawson.

See how she comes to give forth, With joy and pleasure in her eye;  
To give delight the hungry folk, She makes my Nancy Dawson.

Was there no risk to subject beauty, No Shaver bold, nor maid to ply,  
A set of dirty pounds I'd lay, That I give a Nancy Dawson.

208

FOR OCTOBER, 1760.

209

See how the Opera takes a run, Exceeding Hamlet, Lear, and Loo,  
Tho' in it there would be no fun, Was it not for Nancy Dawson.  
Tho' Beard and Breat charm e'ry night, And female Peachum's jolly right,  
And Fitch and Lockit please the sight, 'Tis kept up by Nancy Dawson.

See little Davy strut and puff, Pox on the Opera and such stuff,  
My house is never full enough, A curst old Nancy Dawson.  
Tho' C——k he has had his day, And lost it the towa his laws obey,  
Now Johnny Rich is come in play, With the help of Nancy Dawson.

譜例 3

Love Divine.

To him who did salvation bring, Wake ev'ry tuneful pow'r and sing, A song of sweetest praise, A song of sweetest praise.

His grace diffuses as the rain, Crowns nature's flow'ry hills and plains, And spreads a thousand ways, And spreads a thousand ways.

*Christian Harmony*

譜例 4

GARDEN HYMN. 8, 8, 6

The Lord in - to his garden comes, The spices yield a rich perfume, The lilies grow and thrive, The lilies grow and thrive; Re-

freshing showers of grace divine, From Je - sus flow to eve - ry vine, And make the dead re - vive, And make the dead re - vive.

*Southern Harmony*

譜例 5

WHEN WE ARRIVE AT HOME.

"GARDEN,"  
JEREMIAH INGALLS.

1. The Lord in - to His garden comes, The spices yield their rich perfumes, The lil - ies grow and  
2. O that this dry and barren ground, In springs of wa - ter may abound, A fruit - ful soil be -  
3. Come, brethren, you that love the Lord, Who taste the sweetness of His word, In Je - sus' ways go

thrive, The lil - ies grow and thrive; Re - fresh - ing show'rs of grace divine, From Je - sus  
come, A fruit - ful soil be - come; The des - ert blos - soms like the rose, When Je - sus  
on, In Je - sus' ways go on; Our trou - bles and our tri - als here, Will on - ly

flow to ev - 'ry vine, And make the dead re - vive, And make the dead re - vive.  
conquers all His foes, And makes His peo - ple one, And makes His peo - ple one.  
make us rich - er there, When we ar - rive at home, When we ar - rive at home.

Franklin Square Song Collection

譜例 6

夢の外

(1) む かし のーミ がやどーう はらぬーふ るさとゆ  
(2) コ ノ マニ－ミ ソメ シーキ ノフノーフ ルサトイ

め の ふーう に ーけ ふぞあーへ る ひ  
マハ サーノ スー ユメノスーミ カ フ

ぐ ら し あ きーよぶえー のきのーこ うげにわ  
ウ キ モ オ モーハ ヲメー イヨモーネ ガーハジカ

や の あーグ ふー み んがたーめ よー  
ミノソーグ ミー ナ ガク トーホ クー

『明治唱歌 第五集』

# 哀 歌

(眞白き富士の根)(菰)

山本正夫 調和

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840.

『哀悼歌』

# 95. 眞白き富士の根

三 角 鶴 子 詞  
カ ド ン 曲  
堀 内 敬 三 修 補

♩-60.



5 1 1 1 2 3 | 5 2 2 2 1 | 3 2 2 1 2 | 3 1 5 | 1 1 1 2 3 |

1. ましろきふじのねみどりのえのしまあおがみゝる  
2. ボートワシヅミュータヒロクナバラカゼホナミ



5 5 3 1 | 3 2 2 1 2 | 1 1 5 5 | 5 5 5 5 | 5 5 5 1 5 5 |

も いまわなみだかえらぬじゅうにのを  
モ チナキウタニチカラムツキハタ



5 2 2 2 1 | 3 2 1 5 5 5 | 1 1 1 2 3 | 5 5 3 1 | 3 2 2 1 2 | 1 1 ||

をしきみたまにささげまつるむねとこころー  
プナワタチハハクタイフカシレチリガハムベー

『明治回顧 軍歌・唱歌名曲選 童謡唱歌名曲全集續編』